

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・対象集落の幅を広げるため、多くの組織や地区リーダーに声をかけ、振興局ごとに開催した集落営農研修会等への参加を促し、集落の推進役育成に努めることで、組織化が進んだ。
②	・林業機械のオペレーターの育成と安全な素材生産活動の推進に向けて、各種の研修の受講に対して支援した結果、安全対策意識の醸成が図られた。
③	・豊の浜塾生及び漁業士を対象とした研修会等を実施した結果、水産施策や漁業経営に対する資質の向上が図られた。
④	・県内外で就農セミナー・相談会を独自で11回開催し、のべ286名と就農相談を行った。また、新・農業人フェアに7回出展し、のべ85名と面談を行った。
⑤	・高校生を対象にしたインターンシップを実施した結果、水産業の現状や現場での作業を体験することで、水産業への就業意欲を高めることができ、2名が新規就業し、10名が海洋関係企業へ就業した。

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(26年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価		主要な施策の成果掲載頁
			総合評価	27年度の方向性	
①	中山間地域集落営農経営発展モデル事業	9,231	A	継続・見直し	145
	肉用牛担い手支援事業	18,435	A	継続・見直し	146
②	力強い林業事業体育成事業	482,684	B	終了	147
③	佐賀県漁業新規就業者確保推進事業	9,017	A	継続・見直し	149
④	地域育成型就農システム支援事業	78,099	B	継続・見直し	143
	企業等農業参入推進事業	33,522	A	継続・見直し	144
⑤	魅力ある農業実践教育推進事業	44,507	B	継続・見直し	142
	漁業担い手確保育成活用事業	10,387	A	継続・見直し	148

【VI. 施策に対する意見・提言】

○「安心・活力・発展プラン2005」第1回活力部会(H26.7) ・就農学校の取組は県内各地で始まり卒業生が就農していているが、まだまだ少ない。もっとスピードを上げて新規就農者を確保していかないと、今の人口減少社会では担い手の確保が追いつかないのではないか。	○「安心・活力・発展プラン2005」第4回活力部会(H27.2) ・農山漁村地域の基本は集落活動。集落営農法人間の連携の先には集落連携がある。将来的には集落営農法人同士の合併ということも視野に入れていかなければならないと思う。
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・産地をマネジメントする若手リーダーの育成を図るとともに、女性の経営参画や起業を促進するため、研修会の開催や交流によるネットワークづくりなどを進める。 ・移住者や帰農者の拡大に向け就業相談会や研修を充実するとともに、アクティブシニア層のネットワークや知見を活用した地域力の強化を図る。 ・生産性の向上に向け、各種センサーの導入など生産環境の見える化や、木材生産における3DレーザースキャナやGISなど生産現場にICT技術を導入していくとともに、アシストスーツや下刈ロボットの開発により生産現場の軽作業化を進める。 ・中山間地域における集落営農組織の経営発展を図るため、新たな経営展開にモデル的に取り組む集落営農法人の活動に対し、引き続き支援する。 ・素材生産の担い手となる林業就業者の確保や育成を行うとともに、意欲と能力を有する認定林業事業者が取り組む高性能林業機械の導入や改良に対して支援することで、低コストで計画的な木材供給体制の強化を図る。 ・新たなマーケットへ挑戦するための試験研究機関の機能強化と地域・産地をプロデュースする研究・普及指導体制の充実を図る。